

第128回長崎大学経営協議会議事要録

1 日 時 令和4年4月18日（月）13時30分～15時15分

2 審議事項

(1) 令和5年度入学定員の見直しについて

理事（研究・社会連携・戦略企画担当）及び教育学部長から、資料2に基づき、令和3年4月19日開催の第120回経営協議会において了承された令和5年度経済学部（夜間主コース）の学生募集停止及び当該入学定員を活用した4学部（経済学部（昼間課程）、医学部（保健学科）、情報データ科学部、水産学部）の入学定員増員と併せて、令和5年度に教育学部附属小学校の入学定員を減員することについて、令和4年6月に令和5年度概算要求事項として文部科学省に申請することの説明があり、審議の結果、了承された。

3 報告事項

(1) 第4期中期目標の提示及び中期計画の認可について

理事（総務担当）から、資料3に基づき、2月28日付けで文部科学大臣から提示された本学の第4期中期目標及び3月30日付けで同大臣から認可された第4期中期計画について報告があり、概ね以下のような意見交換があった。

（◎は学外委員，○は大学側の発言）

◎ 長崎大学がやりたいことについて、中期目標、中期計画で伝わるのか。第4期中期目標期間に医学部はプラネタリーヘルスを進化させていくものだと思うが、他学部のテーマが分かりにくい。

○ 第3期までは各大学で中期目標を設定していたが、第4期は中期目標が選択制になったことから、大学の規模等が同じくらいだと似たようなものになるため、前文で大学の特色を出していくことになる。

プラネタリーヘルスは、医学部だけではなく、全学部、全研究科に関係する。現在、学環という研究科をまたぐ組織を作ってプラネタリーヘルスの実現のために取り組もうとしているが、今後、第2、第3の学環のようなものをつくっていけば、もう1つの柱ができるのではないかと考える。

(2) 国立大学法人ガバナンス・コードの改訂について

理事（総務担当）から、資料4-1から資料4-3までに基づき、令和4年4月1日付けで改訂された国立大学法人ガバナンス・コードの主な改正点について報告があった後、今年度の本学の適合状況の更新スケジュールについて報告があった。

(3) 令和3年度に受審した大学機関別認証評価の評価結果について

副学長（計画評価担当）から、資料5-1及び資料5-2に基づき、令和3年度に受審した大学機関別認証評価の評価結果について報告があった。

(4) 令和4年3月卒業生の就職、進学等の状況について

理事（学生・国際担当）から、資料6に基づき、令和4年3月卒業生の就職、進学等の状況について報告があり、概ね以下のような意見交換があった。

(◎は学外委員，○は大学側の発言)

- ◎ 国立大学であるため，長崎大学を卒業したから長崎で就職しなければならないということはないと思うが，地元の企業に就職するかどうかということは重要なテーマとしてあるのではないかと。地元の経済界の代表としては，経済界のリーダーとなっただく方が数多く長崎に残って欲しいとの思いがあるが，就職者のうち，どのくらいの割合が長崎に残っているのか。
- 就職者のうち長崎県内に残って就職している学生は，傾向としては増えていると聞いている。正確な数値ではないかもしれないが，長崎大学は，新入生のうち60%から70%くらいが他県出身者となっており，民間企業に就職する学生の就職時の県内定着率は15%くらいになっている。

県内の企業で働きたいという希望を持っている学生は多いと思うが，どのような企業があるのかをわかっていないのではないかと考えている。長崎県内の企業に定着してもらうための仕組みとして，長崎県内企業との奨学金支給型インターンシップを始めるよう調整している。このような取組を通じて県内の企業とのマッチングも進めていきたい。
- 今回報告した数値は4月1日の暫定版の数値でなる。最終的には5月1日現在で報告が上がり，10月に見直しを行う。留学生で母国に帰国した学生や現在まだ就職が決まっていない学生のフォローを行っていききたい。
- ◎ 最近では，単なる就職ではなく，起業する学生も増えてきていると思うので，起業する学生がどのくらいいるかということも調べて欲しい。
- 現在は起業する学生は少ないが，今後はだんだん増えていくと期待している。

(5) ウクライナ避難民学生等の支援について

理事（教学担当）から，資料7に基づき，令和4年2月24日に始まったロシアのウクライナ侵攻に対し，人道的な立場から，ウクライナの学生に学びの場を提供する支援を開始することについて報告があり，概ね以下のような意見交換があった。

(◎は学外委員，○は大学側の発言)

- ◎ 長崎県全体としては，どのように対応しようとしているのか。
- ◎ 長崎県でも住宅や通訳の確保等，市町と一緒に受入れ態勢を整えようとしている。受け入れる人数は極端に大きな数字にはならないと思うが，来られた方に対しては，市町と連携して支援していきたい。
- ◎ 非常に素晴らしいプログラムであると考えている。緊急支援のための1年間のプログラムであるとのことであるが，日本に40人来てもらえるのであれば，その中で意欲があつて学力がある者は，学位が取得できる正規の学生とする等の柔軟な対応をしてはどうか。
- 正規の学生とできるかどうかは日本の政府次第ではあるが，特に研究者等で日本の文化や日本語に興味がある者は長崎に定着して欲しいと考えている。

(6) 令和4年度入学者選抜について

(7) 最近の大学の主な動きについて

(8) 葉國璽交流会館の竣工について

(6)から(8)までの報告事項については，資料配付のみとした。

(以上)